
監視カメラは見た！

三代渡吉

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

監視カメラは見た！

【Zコード】

Z6543F

【作者名】

三代渡吉

【あらすじ】

おはようからおやすみまで、監視カメラはいつだってあなたを見守っています。

俺は監視力メラ。

いつだってみんなを監視しているけど。

本当は見守つてるって言い直して欲しいと思つてる。

深夜は、とつても暇が大変な事態が起きるかのどつちかだ。
コンビニの監視力メラつていうのは、いつもそういう微妙な位置
に立たされている。辛いがそれが仕事だ。

今日はバイトの力ナコさん（21）が担当だ。

結構好みだけど、まあ監視力メラな俺には優くも叶わぬ恋である。
そんな日、やたら下が薄着な男が店に現れた。

このクソ寒いのになんで薄着してるんだろうと思つたら、ソイツ
はジャケットをいきなり脱いだ。下は素つ裸だつた。

そして、又の間をこれ見よがしに強調しはじめた。
うわあ。

俺は気持ち悪さに萎えて目を閉じた。

いや、ここで逃げていてはいけない。なんとかしなくては……力
ナコさん（21）が危ない。

そうだ、ちゃんと録画すれば警察がきっと捕まえてくれる。

そうすれば、きっと力ナコさん（21）の不快感に耐えた努力も
報われるだろ。う。

俺は、勇気を出して目を開けた。

うわあ。

目を閉じた。

翌日。

少し身体を直してもらった俺は元気一杯。今日も頑張るぞ！
しかし、朝からよく人がくる……。

学生が多いのはわかるが、なんでこんな時間にコンビニへ入ってくるんだ？ という奴がいる。

特に、今こうして朝っぱらから文句をタラタラ垂れているジジイ、これがムカツク。

ああ、どうして俺は首の動くタイプに作ってもらひなかつたんだろ？ ツバがかかるつものなら許さないぞ。

イライラしていると、ジジイが俺を向いてなんか指をしつきた。

おいおい、テメエの指垢なんざみたくねえよ。

「こんなものに金を使っておきながら、どうして密のサービスに金を使えないんだ！」このクズめ！

「いや、こちらは店を守るために……」

「密の快適さを守れなくてどうすんだよ！ 金儲けのことしか考えてないからそんなことがいえんだよ。お前バカか？ バカか？

あー、つやつちな、このクソジジイ！

そろそろウザクなつてきた俺は、丁度真上にジジイがいたので、自分を固定していた金具をそつと外した。

パカン。

シユルシユルシユル、ゴチーン！

コードが延びきつたうえにぶつかつたおかげで、俺も体中相当痛かつた。

でも、ジジイもこれでようやく静かになつた。

ふう、これでこのコンビニもまた落ち着いてくれるな。

俺はそう安心したら、ついつい眠気に負けて深い眠りに落ちてしまつた。

そのまた翌日。

取り付けなおしてもらつて、ついでに汚い血も拭き取つてももらつた俺は今日も元気一杯。

朝は雨のためか客も少なく、とつても幸先の良いスタートだ。

結局、なんかコンビニの端末が詰まつたという以外に問題はなく、

至つて平和。

しかも午後からはカナコさん（21）がバイトでやつてくる。これを喜ばずにいられるものか。

そして、午後の人気がやつてきた。予定通りカナコさん（21）もいる。

俺の仕事もこれではかどるつてもんだ……と思つたら、問題が起きた。

そこら中にピアスをつけた金髪の男が、ナンパを始めやがつたのだ！

「へーイ、今夜暇？」

ちょっと古い文句がまたムカツク。

クソ、俺のカナコさん（21）があんな男にたぶらかされたらダメだ。

「口、口口口口口口口！」

「あん？」

俺は勇気を出して、声をあげた。

「そそそそそ、そつその子は僕が先に好きになつた人だ。お前みたいなのには渡さないぞ！」

「何、ビビッてんのお前？　怖いのイヤならいつそ黙らしてあげようか？」

と、拳をポキポキさせながら、僕の方へと男がやつてきた。

まずい、壊される……！

誰か助けて……。

「えいっ」

ボカツ！

男は、カナコさん（21）に背後から殴られて、白目をむいて気絶した。

ざまあみろ、このクソボケバカアホハナクソマヌケゴミカス男めが。ハハ、ハハハハハ。

「監視カメラさん……」

力、カナコさん（21）がこっちを見ている。なんか目が虚ろだ。
「さつきの言葉、本当ですか？」

俺は、自分の身体がスパークしてゐるのを感じた。ああ、何か返さ
なきや、えつと、えつと。

「ほ、ほほほほほほほほ、本当ですかー。
噛んでしまった……。

「まあ、可愛いプロポーズね」

カナコさん（21）が微笑みながら、脚立で僕のところまであが
つてきた。

そして、僕に熱いキスを……。

ハツ。

時刻は五時。

夢だったのか……せつかくカナコさん（21）と話せたのに。
なんて、監視カメラが話せるわけないんだけど。じね。
それにしてもイカンイカン、また居眠りしてしまった。これじゃ
監視力メラ失格だよね、もつとしつかりしないと。

「どうだね？ 石橋くん」

「ダメっすね、一応つきましたけど、こいつちょっと消えちゃう
んじや、寿命かもしれないですよ」

店長と石橋^{フリータ}が何か話している。

「金はかかるけど仕方ない。香夏子くんの事件の時もこれのせいで
犯人逃しちまったからな。変えよ」
「じゃあ、とりあえず今からでも外しておきますね。今日は自分達
の田で注意するってことで」

あれ？ どうして俺を外すんだよ。
さつき取り付けなおしてもらつたばっかりだ。

おい、やめるよ、やめろって。

お前等は俺がいないと何も出来ないくせに、おい、何すんだ。口
つやめる。

プチン。

俺は監視力メラ。
いつだってみんなを見守っていた。
今は、同胞の悲鳴しか聞こえない
この島は地獄だ。

(後書き)

ジャンルが結局その他になってしまつ。あと監視カメラの構造知らないで書いてしまつたのが反省点。見切り発車はよくないけど、リアル構造を考えると話を根本から変えないとけないところもあるので。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6543f/>

監視カメラは見た！

2010年10月8日15時16分発行